

みちのく ココロとカラダの癒し旅



一新された薬師の湯(大浴場)には名温泉旅館の風格が漂う

温泉経営者の夢かなう

温泉好きであれば、1枚の浴場写真を見るだけで「あ、これは○○温泉だな」と言い当てられることがある。そしてそれは、一度は入ってみたあこがれの温泉であったりもする。温泉経営者の中にも、そのような有名温泉の浴場と同様のものをわが旅館にも…と思う人もいる。しかし、少なくとも資金が必要なことであり、また、改装工事中は休業せざるを得ない場合もあつて、現実にはなかなか踏み切れないものだ。

小安峡温泉の多郎兵衛旅館といえど、コマーシャルも流れていて秋田ではよく知られた温泉旅館の一軒だが、その多郎兵衛旅館がこのたび大浴場を一新した。

いつかはおもむきのある浴場をつ



くりたいという多郎兵衛旅館ご主人の夢がかない、この9月に晴れてリニューアルオープン運びとなったものだ。

雰囲気のある大浴場が完成

かつては温泉旅行といえば団体客が主体であったが、今は個人客に好まれる温泉宿が評価される時代だ。多郎兵衛旅館のご主人も、九州の人気の温泉郷・黒川温泉に何度も足を運ぶなど、今の時代のニーズを探っていた。そんな折に、黒川の著名旅館の浴場でも使われている阿蘇産の石材の出物があることを知り、浴場を造り替えるなら今しかない、今年に入つて一気に大浴場のリニューアルに取りかかったものだ。湯船と洗い

場はご主人自ら九州まで出向いて見立てた阿蘇の石。それを敷き詰めた新浴場の何十年も昔からあるような重厚なたたずまいは、間違いなく多くの温泉ファンに「一度は入ってみたい」と思わせることだろう。ちなみに、大浴場の天井の梁、秋田杉の丸太は、見る人が見れば驚くほどの立派なもの。山林を所有するご主人の親族があつたからこそ手配できたものだから。

無色透明のアルカリ性単純泉の湯は石けんの泡立ちも良く、肌に心地よい。また、今回のリニューアルを機に、大浴場の湯温を従来より1度下げ、41度の設定にした。のんびりゆったり湯を楽しんでほしいという心遣いだ。確かに、わずか1度の違いでも、42度と41度の湯温の差の印象はけっこう大きい。



しっとりとした風情がいい
三宝の湯(離れ浴場)



子宝の湯(小浴場)は貸し切り風呂としても利用できる



小安の源泉。ここから各旅館に配湯される



館内は手づくり民芸アクセサリーに彩られ、売店の土産も民芸品中心

大浴場とは別に木の湯船の小浴場もある。こちらにも男女別だが、申し込めば貸し切り風呂としても使える。人目を気にせずのんびりと風呂に入りたい人や入浴に介添えが必要な人などには重宝。

さらに、大浴場の工事期間中の代わりに造られた離れ浴場と、露天風呂もある。それぞれに趣の違う風呂をハシゴしてみたいものだ。

小安峡と言え、峡谷の断崖から轟音とともに蒸気と熱湯が噴き出している大噴湯が名物。秋には周囲の木々も色づいて、絶景紅葉ともいえる眼福の景観となる。



グループ客の会食場になる囲炉裏(いろり)の間



山菜とキノコ鍋



皆瀬牛の冷しゃぶ



ひとくち稲庭うどん



女将心づくしの手づくり料理が夕食のお膳を彩る



轟音とともに熱湯と蒸気が噴き出している
小安峡大噴湯。紅葉シーズンも壮観



客室は純和風の落ち着いた造り

山里の旬の味が食膳に

多郎兵衛旅館は女将手づくりの、キノコや山菜を多用した料理も名物。地元の名産素材を生かした山峡の宿らしい料理が並ぶ。少人数であれば基本は部屋食、グループならば別室の囲炉裏の間の会食も選べる。館内いたるところにある民芸調の飾り付けも素朴でほほえましい。今までに泊まったことのある人でも、生まれ変わった「風呂自慢」の温泉宿を、ぜひもう一度訪れていただきたいものだ。

(写真真ん中・つりねこ) 秋田市

T A R O B E E R Y O K A N

施設のご案内

- 客室 25室
- 宿泊人員 120名様
- 大浴場「薬師」
- 離れ浴場「三宝の湯」
- 小浴場「子宝の湯」
- 露天風呂
- 大宴会場 ●喫茶ラウンジ
- お食事処 ●おみやげ処
- 駐車場完備 30台

お一人様 1泊2食付き
10,650円より(税・サ込)



秋はきのこ料理が並ぶ



朝食は大広間でいただく

湯沢市・小安峡温泉
多郎兵衛旅館

〒012-0183
秋田県湯沢市皆瀬字湯元121-5
TEL.0183-47-5016
Fax.0183-47-5047
HPアドレス <http://www.tarobee.com>